

業務改善計画一覧（概要版）

No.	チーム名	テ ー マ	目的と現状	改 善 案	期待される効果	実行担当課	振分区分
1	警防チーム	消防隊の能力及び火災対応力の向上について	<p>【目的】</p> <p>① 「市民の安全安心を守る」という消防業務を停滞させないため、教育訓練を徹底・充実させる。</p> <p>② 火災性状や戦術の理解を深め、火災現場で安全に効率的な活動ができる隊員を育成する。</p> <p>【現状】</p> <p><火災対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 各隊及び個人での活動能力差がある。 災害現場活動基準等が策定されているが、周知・徹底されていない。 <p><教育訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> 所属ごとの訓練計画であり、訓練実施に大幅な差がある。 上席者により指導内容が異なる。 事務負担の増加による訓練時間の減少。 上司と部下の訓練に対する問題意識の違い。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 消防大学校等での教育内容が、災害現場や訓練に反映されにくい。 	<p>① 警防部会（消防力向上に向けた継続的な検討ができる体制）の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 警防活動及び教育訓練の評価、改善 イ 新たな知識、技術の導入に向けた検討 ウ 若手職員の状況把握 <p>② 火災対応力向上のための、3段階の訓練カリキュラムの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 知る … 座学により火災性状、消防戦術に関する基礎知識を習得する イ 見る … 火災性状を可視化させ教養を行う ウ 感じる… 現場に近い環境のもと、実際に体験する <p><有効な施設・資機材の導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ウェアラブルカメラ ファイヤーコントロールボックス 実火災体験型訓練施設 	災害現場で安全に効率的な活動ができる隊員を育成	警防課 東消防署 西消防署	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議 (ウェアラブルカメラ)
2	警防チーム	山形市消防本部公式SNSアカウントの開設	<p>【目的】</p> <p>若年層（10～30代）をターゲットとして、消防活動や日常業務に関する情報を発信し、市民の方に消防を身近な存在として感じてもらうことで、さらなる信頼を獲得する。</p> <p>【現状】</p> <p>HP等の発信は大規模な訓練やイベントに関する情報が多く、消防の業務を身近に感じづらい。</p> <p>現場活動以外の消防の日々の活動や業務について、市民の方に発信する機会がない。</p>	<p>①使用するメディア</p> <ul style="list-style-type: none"> Twitter（防災情報等の緊急性があるもの） Instagram (消防業務やイベント等の画像によるアプローチが有効なもの) <p>②投稿内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種イベント等のお知らせ及び開催の様様 防火防災に関する情報 消防業務、各署所の紹介 親しみを持ってもらう事項など 	市民の信頼と消防への関心を得る	東消防署 西消防署	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議

No.	チーム名	テ ー マ	目的と現状	改 善 案	期待される効果	実行担当課	振分区分
3	救急チーム	救急救命士継続教育に係る病院実習の実施方法の見直し	<p>【目的】 個人派遣型方式を導入し、処置特化型の実習カリキュラムを策定することで、救急救命処置に関する能力を向上させる。</p> <p>【現状】 派遣型ワークステーション方式による病院実習であり、実習時における救急出動件数が増加していることから十分な実習時間が確保されていない。 また、実習カリキュラムがないため、救急患者に対する処置をする機会がほぼなく、見学のみの実習になるケースが大半である。</p> <p>※派遣型ワークステーション方式とは 救急救命士3名が救急車で出向し、救急要請時は出動対応する病院実習方式</p> <p>※個人派遣型方式とは 救急救命士1名が出向し、出動対応をしない状態で行う病院実習方式</p>	<p>①派遣型ワークステーション方式の廃止及び個人派遣型方式の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急出動等の影響を受けることをなくし、効率的な実習を行う。 <p>②実習カリキュラムの策定及び処置特化型実習の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来や病棟での点滴処置等の処置に特化した実習を取り入れた実習カリキュラムを策定する。 	救急救命士の能力維持及び向上	救急救命課	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議
4	救急チーム	救急隊の教育について	<p>【目的】 「呼んでよかったと思われる救急隊」、「市民に選ばれる救急隊」を組織的に目指し、救急隊の能力を向上させる。</p> <p>【現状】 近年、救急隊は若年化しているが、求められることは多様化、高度化している。教育については、一応のカリキュラムが用意されているが、それ以外は上司に一任されている。そのため、上司の指導が若手職員の成長に大きく関わり、上司の力量や熱量によって若手職員の能力に差が出ている。 また、勤務時間中は出動が最優先であるため、出動件数が多い救急隊は計画的な教育や訓練が実施しにくい。</p>	<p>救急隊の教育について検討するワーキンググループの設立</p> <p>①若手職員のレベルに応じた教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任救急救命士 ・救急救命士を目指す救急隊員 ・新任救急隊員 <p>を対象とした双方向的な教育を行う。</p> <p>②指導力の向上を目指した教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者側の技術向上を図る研修会を開催する <p>③消防組織外での研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織外で救急活動の質の向上に繋がる分野や業種から学ぶ（サービス業など）。 	救急隊全体の能力向上	救急救命課	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議

No.	チーム名	テ ー マ	目的と現状	改 善 案	期待される効果	実行担当課	振分区分
5	予防チーム	動画を活用した人材育成	<p>【目的】</p> <p>予防業務を訓練する場を設け、職員内での予防分野の知識格差を削減するとともに、窓口や電話応対時の市民サービスの質を向上させる。</p> <p>【現状】</p> <p>予防業務に関する訓練を実施しておらず、実地的に学ぶことや個人の努力が重視されているため、予防分野に精通する職員が育ちにくい。また、苦手意識を持つ職員が増加している。</p>	<p>法令や制度、届出受理に関する動画を作成し、YouTube で公開</p> <p>①「消防用設備等点検制度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令への理解を深め、報告書の審査や立入検査時に具体的に説明する力をつける。 <p>②「火災と紛らわしい煙又は火炎を発するおそれのある行為等の届出書」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話での受付時間を短縮させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防法令への理解が深まり、報告書の審査はもとより、立入検査時にも説明する力が身につく ・届出書の受付業務の処理時間の削減 	予防課	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議
6	予防チーム	消防安全サポーター制度による火災予防対策	<p>【目的】</p> <p>火災件数の下げ止まりに対する対策として、小規模飲食店の火災予防対策に取り組み、社会的損失が大きい事業所火災を削減することで山形市の財産を後世に守り残していく。</p> <p>【現状】</p> <p>事業所等については、原則150㎡以上の防火対象物に立入検査等を実施しているが、それ以外の小規模な事業所には十分な火災予防対策が取られていない。</p> <p>市民が建物について、防火上の安全性を確認する制度があるものの内容が限定的で認知度も低い。また、市民が飲食店を利用する際に、その店が消防法令を遵守しているか知るすべがない。</p>	<p>消防安全サポーター認定ステッカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立入検査の結果、消防法令等に適合している飲食店にステッカーを交付する。交付されたステッカーは、屋外から視認できる箇所に掲示してもらう。 	<p>火災件数の減少及び市民の火災予防意識の向上</p>	予防課	<ul style="list-style-type: none"> ・実行 ・予算化 ・再協議